

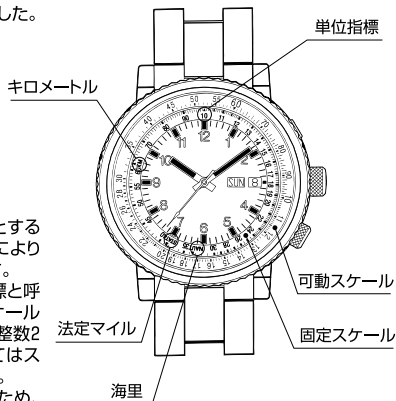
<補足説明>

この度は、当社製品をお買い上げいただきありがとうございました。

◆回転計算尺のご使用方法

【各部の名称】

右図参照



【計算尺の原理】

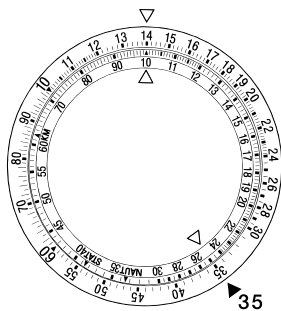
$\log(A+B)=\log(A)+\log(B)$ という法則 (\log とは、10を底とする対数です。)を利用して、対数同士の「足し算もしくは引き算」により「掛け算もしくは割り算」の解を導く原理を採用しております。そのため、“10”という数字は計算尺の基本となり、単位指標と呼ばれています。本製品の回転計算尺では、10～99までのスケール取りとなっており、補助スケール取りは行っておりません。(整数2桁、小数点以下1桁)従いまして、計算数値および解に関してはスケール中に存在する数値に換算し、計算する必要があります。その場合、計算尺では前途の対数 “log” を基本としているため、10の倍数 (… 1/100、1/10、1、10、100 …) での換算が必要となります。

1. 乗除算

回転計算尺では、一般的な計算のひとつである「掛け算」「割り算」も簡単に行えます。この場合の基本となるのは、前述の単位指標である固定スケールの“10”となります。

<例> 掛け算 “25×14” の値を求める。

固定スケールの単位指標 “10” に可動スケール “14” を合わせます。このとき、固定スケールの “25” の、対向の位置にくる可動スケールには “35” という数字が表示されています。“25×14” の解は、3桁になることが予想できるため、35の10倍、つまり “350” が答えということになります。



裏面に続く →

◆ カレンダー【 曜日が方向絵表示 】の合わせ方

◎ 曜日の表示が当仕様タイプの場合 (EM)

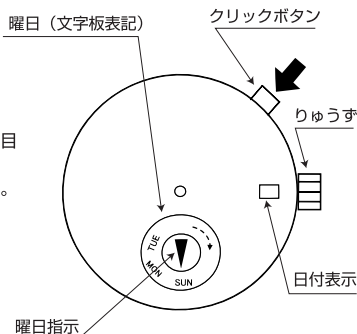
* 操作する前に 本文の ◆時刻及びカレンダーの合わせ方”を確認後、同様に行ってから操作して下さい。

- ① クリックボタンを押して曜日指示部のマーク矢印 (▼) で目的の曜日に合わせて下さい。
- ② 曜日指示部のマーク矢印 (▼) の表示は、2タイプ有ります。



お好みのタイプをお選び下さい。

* その他は、本文同様です

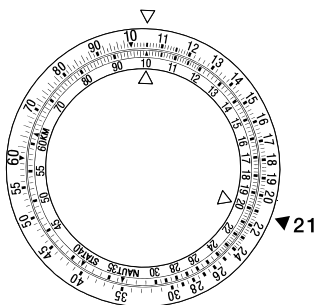


2. 通貨の換算

1の応用で通貨の換算も可能となります。

<例> US\$1.00=¥105の通貨レートの時、US\$20.00を日本円で、いくらに相当するかを求める。

固定スケールの単位指標“10”に可動スケール“10.5”
(105のスケールは無いため、1/10にする。)を合わせます。
このとき、固定スケールの“20”の対向の位置にくる可動スケールには“21”という数字が表示されます。
“US\$20.00”は日本円に換算すると4桁になることは予想できるため、21の100倍、つまり“¥2,100”が答えということになります。



3. 距離換算

法定マイル、海里、キロメートルと異なる距離の単位を、自在に換算できます。

固定スケールに表示する“NAUT”で海里、“STAT”が法定マイル、“KM”がキロメートルを各々表します。

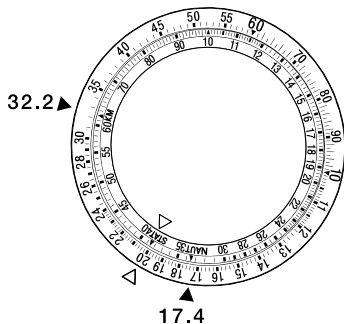
<例> 法定20マイルが何キロメートル、何海里に相当するか、を求める。

固定スケールの“STAT”の三角インデックス位置に可動スケールの“20”を合わせます。

このとき、固定スケールの“KM”の三角インデックス位置の対向にくる可動スケールには“32.2”という数字が表示されています。

また、固定スケールの“NAUT”の三角インデックス位置の対向にくる可動スケールには“17.4”という数字が表示されています。

つまり、法定20マイルは、“32.2キロメートル”と“17.4海里”に相当することが分かります。



▲ 注意

この時計に搭載している「回転計算尺」の機能は、専門的な計算機としての用途を目的に製造したものではありません。そのため、計算結果は目安としてご利用下さい。